



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 6

Aug. 2002

目 次

諸報告

2002年度第1回メール評議員会議事抄録.....	2
会長および評議員選挙公示	3
学会からのお知らせ	
日本植物分類学会第2回大会(2003年)のお知らせ.....	4
2002年度日本植物分類学会関西地区講演会のお知らせ	4
第2回(平成15年)日本植物分類学会賞受賞候補者の募集.....	5
平成14年度(第24回)沖縄研究奨励賞推薦候補者募集.....	6
第3回大会開催地の募集.....	6
鹿児島大学総合研究博物館植物標本室の紹介	7
植物標本を有する収蔵庫における害虫・黴対策について.....	8
追悼	
里見信生先生のご逝去を悼む.....	13
連絡員から夏便り	
北方草木便り・3・.....	15
コケ便り・3・.....	17
日本植物分類学会選挙人名簿.....	19
会員消息.....	28

諸報告

2002年度第1回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 梶田忠

2002年7月19日～31日に、2002年度第1回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。

開催日時 2002年7月19日～30日

開催方法 電子メール等の媒体を用いた会議

出欠確認 メール会議につき、評議員全員と会長、他役員が出席。

- ・議長として加藤雅啓会長が選出された
- ・議事録署名人として邑田仁氏と西田治文氏が選出された。

審議事項

第1号議案： 関西地区講演会開催時期の変更について

関西地区講演会はこれまでは主に1月に行われていたが、3月の大会と開催時期が接近しているため、毎年12月開催に変更したいという案が提案され、賛成11、白票2で承認された。

第2号議案： 2002年度事業計画の変更について

今年3月の評議員会と総会で承認された事業計画では、関西地区講演会1回(2002年1月20日に開催済み)の開催が認められていたが、第1号議案にある開催時期変更に伴い、2002年度は12月にもう一度開催するよう事業計画を変更することが提案され、賛成11、白票2で承認された。なお、次年度以降は年1回開催の予定である。

第3号議案： 国際シンポジウムの開催について

新学会の発足以来、IAPT2004準備委員会を設立して検討を重ねてきた。海外からより多くの参加者を募ることや助成金の獲得を考えた場合、なるべく早く、シンポジウム開催について広くアナウンスする必要がある。ただし、このシンポジウムをどのような体制で実施するかについては、これまで正式には協議されてこなかった。そこで、日本植物分類学会が主体となり、IAPT、歴史民族博物館、日本植物学会、韓国植物学会などと共催する形で、国際シンポジウム「International Symposium on Asian Plant Diversity and Systematics」を2004年に開催することが提案され、賛成11、白票2で承認された。

報告事項

1. 国際植物命名規約邦訳委員会の設立について：

国際植物命名規約(ICBN)の邦訳と出版は、これまで大橋広好氏が個人で行ってきたが、今後も継続的に日本語版を供給することを目的として、国際植物命名規約邦訳委員会が設立された。委員長は大橋広好氏、委員は永益英敏氏他数名の予定。

会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 菅原敬

新たに出発した日本植物分類学会も2年目を迎えていますが、会長をはじめとする役員
の任期は2年ですので、学会会則12条及び役員等の選出についての細則に基づき、次期
会長・評議員の選挙を下記の通りおこないます。

会長、及び評議員には、日本植物分類学会の今後の活動や運営の舵取りをしていただ
くこととなりますので、忘れずに投票くださいますことを、会員のみなさまにお願い致
します。なお、今回は会則第13条の3で定められている、役員の在任期間に関する制限
が適用される方はおられません。

選挙実施細目

1. ニュースレターにとじ込まれている選挙人名簿をご覧になり、同封の会長選挙投票用
紙（桃色）に会長候補者1名を、評議員選挙投票用紙（緑色）に評議員候補者8名以
内をそれぞれ記入してください。
2. 記入後、投票用紙を二つに折り、同封の封筒に入れて郵送してください。封筒には、
住所・氏名を必ず記入してください。
3. 封筒が同封されていないか、あるいは紛失した場合には、「会長・評議員選挙投票用
紙在中」と朱書きした任意の封筒で郵送して下さい。なお、投票用紙の再発行はいた
しません。
4. 投票締め切り 2002年9月30日（消印有効）
5. 開票日時・場所 2002年10月5日（土）午後1時・東京都立大学牧野標本館
会員2名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができま
す。立ち会いを希望される場合は、なるべく選挙管理委員長までご連絡ください。
6. 規定の数を越えて候補者名を書いた場合には、その票自体が無効となります。また会
員以外の候補者名を書いた場合には、会員以外の部分のみが無効となります。
7. 同姓、あるいはよく似た名前の会員がおられますので、投票に当たっては、同封の選
挙人名簿をご参照のうえ、氏名を略さずにお書きください。

投票用紙送付先・連絡先

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科牧野標本館

日本植物分類学会選挙管理委員長 菅原敬

Tel: 0426-77-2425 Fax: 0426-77-2421

e-mail: sugakei@comp.metro-u.ac.jp

学会からのお知らせ

日本植物分類学会第2回大会(2003年)のおしらせ

庶務幹事 梶田忠

日本植物分類学会第2回大会は次の通り開催する予定です。

- (1) 会場 神戸大学(神戸市灘区六甲台町1-1)
百年史記念館(大会会場)・滝川会館(総会・懇親会)
- (2) 日程
- 3月14日(金) 午後14:00 ~ 公開シンポジウム
(仮題)「海・川と植物の進化 - 障壁または回廊としての役割 - 」
評議員会
- 3月15日(土) 午前 口頭発表
午後 総会、記念講演、ポスターセッション、懇親会
- 3月16日(日) 午前・午後 口頭発表(~ 15:00 頃まで)
- (3) 大会に関する連絡先
小菅 桂子
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学 遺伝子実験センター
TEL : 078-803-5957; 078-803-5712 (理学部 生物学教室)
e-mail : kosuge@kobe-u.ac.jp

なお、大会の詳細及び参加申し込み等のご案内は、次号のニュースレター(11月号)でお知らせします。

2002年度日本植物分類学会関西地区講演会のお知らせ

大阪市立大学 田村実

今年度の日本植物分類学会関西地区講演会は次の通り開催する予定です。話題は植物地理に関連したものが多くようです。どうぞよろしくお願い致します。詳細は次号のニュースレターでご連絡させていただきます。

- (1) 会場 大阪市立大学文化交流センター
(大阪駅前第2ビル6F)
- (2) 日時 2002年12月21日(土)

第2回(平成15年)日本植物分類学会賞受賞候補者の募集

庶務幹事 梶田忠

日本植物分類学会賞は、調査および研究の業績を通して本学会の発展に貢献した会員を顕彰するものです。プロ的、アマチュア的などの如何を問わず、さまざまな内容の調査と研究を幅広く対象にします。以下の要領で日本植物分類学会賞受賞候補者を募集いたします。自薦、他薦を問いません。会員の皆様の積極的な応募を期待しております。なお、受賞候補者の選考は「学会賞についての細則」に定める学会賞選考委員会で行います。

応募要領

1. 資格：本学会の会員ならどなたでも応募できます。
2. 応募方法：以下の事項をA4用紙に記入して(書式自由)、日本植物分類学会事務局
日本植物分類学会賞選考委員会宛までお送り下さい。
3. 記入事項
 - (1) 略歴(生年月日、学歴、職歴)
 - (2) 調査・研究の簡単な説明
 - (3) 業績(本学会の大会発表記録、著書、論文などの業績リスト。できれば代表的なもの
の別刷、コピーを添付して下さい)
4. 申込み先・問合せ先：日本植物分類学会事務局日本植物分類学会賞選考委員会
〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
電話 03-3814-2625 ; ファックス 03-3814-0139
電子メール tkaji@bg.s.u-tokyo.ac.jp
5. 応募締切日：平成14年11月22日(必着)
6. その他：受賞者は平成15年春の日本植物分類学会総会において表彰されます。また
受賞者には原則として同時期の大会において受賞講演を行っていただきます。

第1回日本植物分類学会賞受賞者については、ニュースレター4:3(2002)をご覧ください。

平成14年度(第24回)沖縄研究奨励賞推薦候補者募集

庶務幹事 梶田忠

財団法人沖縄協会から、平成14年度(第24回)沖縄研究奨励賞推薦応募についての協力願いが届いています。この賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学、人文科学又は社会科学)を行っている50歳以下(7月15日現在)の新進研究者(又はグループ)3名以内に贈られるもので、学会、研究機関若しくは大学又は実績のある研究者からの推薦を必要とします。当学会からの推薦を希望される方は、9月5日までに、庶務幹事(梶田 忠 e-mail: tkaji@bg.s.u-tokyo.ac.jp)までご連絡下さい。なお、この賞に関する詳しい内容は、下記問い合わせ先までお問い合わせ下さい。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15 グローリアビル7F

(財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」担当 石坂次郎

電話 03-3580-0641 ファックス 03-3597-5854

URL: <http://village.infoweb.ne.jp/~fvgm0090/>

E-mail: fvgm0090@mb.infoweb.ne.jp

第3回大会開催地の募集

庶務幹事 梶田忠

日本植物分類学会第3回大会(2004年)の開催地を募集いたします。大会開催にあたっては、講演会場(約150名収容可能なもの)、クローク、本部、休憩室、ポスター発表会場等のスペースが必要となります。また、大会中に評議員会等の会議室をお借りすることになります。大会前の準備としては、大会案内と大会申し込み書の作成、プログラム編成、要旨集の編集・発行、懇親会会場の選定などがあります。大会運営は学会からの補助金(10万円)と参加費で行っていただきます。大会をお引き受け下さる(あるいは詳しい話によっては引き受けても良い)という会員の方は、2002年12月22日までに庶務幹事宛(下記)にご連絡をお願いいたします。ご参考までに、これまでの大会開催地(旧学会大会を含む)は学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jsps/>)でご覧になれます。

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1

東京大学大学院理学系研究科附属植物園内

日本植物分類学会事務局 庶務幹事 梶田忠

電話 03-3814-2625 ファックス 03-3814-0139

E-mail: tkaji@bg.s.u-tokyo.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館植物標本室の紹介

鹿児島大学総合研究博物館 落合雪野

鹿児島大学総合研究博物館標本室は、鹿児島大学農学部から移管された標本をもとに、2002年春にオープンしました。多数の方に活用していただきたく、前号(No.5、2002)の堀田満先生の記事に続いて、紹介いたします。

概要

スタッフ：落合雪野(有用植物学、民族植物学)、福永しげ子(保存科学)

場所：鹿児島大学郡元キャンパス内、農学部1号館1階(農学部図書室隣)

総合研究博物館の建物は理学部1号館西側にあります。標本室とは、少々はなれていましてご注意ください。また、オフィスアワーの時間帯(毎週火・水・木、14:00~16:00)を除き、施錠されていることが多いので、立ち寄られる場合はスタッフまであらかじめお知らせくださると確実です。

収蔵標本：被子植物、裸子植物、シダ植物のさく葉標本約14万枚

面積：床面積80平方メートルの室内のほぼ全部を使って標本を配架しています。部屋の一角に机といすを置いて、閲覧用スペースを作っているのですが、かなり狭いです。一度に利用できるのは、3名くらいまでです。

空調：気温20、湿度50%

防虫剤：ナフタリン

配架の方法：ブリキ容器と棚を使用した、かつてのポゴール標本庫式です。これは、鹿児島大学農学部造林学教室に着任した初島住彦先生が採用したものです。ふたに書かれた科名の書体も美しく、なかなかよいものではないかと思っています。被子植物と裸子植物は科のアルファベット順、シダ植物は岩槻(1999)にしたがってそれぞれ並んでいます。

現状

2002年7月までに、全部で982個ある容器を全部使い果たして、標本を収納しました。被子植物が869個分、裸子植物が23個分、シダ植物が100個分をそれぞれ占めています。しかし、すでに中は飽和状態にあり、標本が出し入れしにくい容器も珍しくありません。また、新たに標本を並べることも困難です。将来的にはロッカー式に移行したいと考えていますので、しばらくの間は別の形の容器を追加しての整理が続く予定です。また、汚れたり、マウントがはがれたりした標本が多く含まれていますので、順次、清掃や補修の作業をしています。

利用

ここまで述べたように、決してベストの状態とはいえませんが、標本室をみなさんに利用していただきたいと思っています。九州、南西諸島でのフィールドワークや学会の

際には、ぜひお立ち寄りください。また、キュレーターも新米ですから、お気づきの点はどんどんご指摘ください。

標本室の利用に関する連絡、問い合わせ先は、次のとおりです。

〒890-0065 鹿児島市郡元1 - 21 - 30 鹿児島大学総合研究博物館

電話 099 - 285- 7256 (落合) 099 - 285- 7257 (福永)

FAX 099 - 285 - 8141、(博物館代表 e-mail は、秋までに開通予定)

鹿児島大学総合研究博物館の標本利用規程により、利用者には、かんたんな利用願を提出していただくことになっています。利用希望者にはその書式をお知らせしますので、利用当日までに記入をお願いします。

植物標本を有する収蔵庫における害虫・黴対策について——

人と自然の博物館 秋山弘之

これまで多くの博物館収蔵庫の薫蒸剤には臭化メチル、あるいは臭化メチルに酸化エチレンを加えたエキボン(商品名)が用いられてきた。この臭化メチルが、2005年1月1日には先進国において全廃され、まったく使えなくなることは多くの方がご存じだろう(1997年第9回モントリオール議定書締約国会議)。国内で消費される臭化メチルの多くは農作業用(ハウス内の土壌などの薫蒸)と検疫用がほとんどで、文化財の薫蒸に使用されている臭化メチルの量は微々たるものである。そのため、全廃後も文化財薫蒸用には使えるのではないかとこの憶測が流れたこともあったが、これは根拠のないうわさにすぎない。収蔵庫の管理を担当するものは、2005年以降臭化メチルは全く使用できないと心にとめておく必要がある。それだけでなく、全廃の期限が迫るにつれて臭化メチルの価格が高騰しており、あるいは入手そのものが難しくなりつつあるとの話も聞く。この現状をふまえ、さく葉標本などの収蔵資料を虫害・黴害から守る手法、そして薫蒸を行なうに当たって注意すべき点などについて言及したい。

収蔵資料を守るために

高温で湿気が多い夏期をもつ日本では、特に虫による被害が大きい。いかにして虫害から標本を守るかが、収蔵庫を管理するものにとって大きな課題の一つである。虫による被害発生後に薬剤による薫蒸をおこない、被害を最小限にとどめるのがもっとも現実的なやり方だと思われる。

ここでは、完全に外気と遮断された環境をもつ収蔵庫があるものとして話をすすめたい。そうでない場合は、虫害を防ぐことはまず不可能である。日本ではナフタリンを大量に室内に設置して虫が外から入ってこないようにするのが一般的であるが(ナフタリンには忌避効果はあるが殺虫効果はない)周囲から臭いについて強い苦情がでることが多い。ナフタリン等の臭いは、標本を日常的に扱う分類学者を除けば、一般に非常に嫌われる臭いであることも十分に考慮する必要がある。それだけでなく、ナフタリンの健

康被害も問題とされつつあり、より毒性の少ないとされるパラジクロロベンゼン、あるいは殺虫効果のあるピレスノイド系防虫剤（いわゆる「衣類の防虫剤」の類）で代用するのもひとつのやり方だろう（<http://www.jaia-aroma.com/MSDS/j11.htm>）。

1 . 総合的害虫管理 = ころばぬ先の杖

まず大切なのは、収蔵庫内の湿度を低く保つこと、虫を外から内部に持ち込まないことである。このような日頃の管理全般を、最近ではIPM (Integrated Pest Management 総合的害虫管理) と呼ぶようだ。

収蔵庫内の定期的なモニタリング：たとえば、簡単に手に入るジンサンシバンムシやタバコシバンムシのフェロモントラップを使って害虫の存在を知ることができる。ある日標本を見て卒倒する、という事態をさけることができる。ただし、雄しか捕まらない上に、虫の数が少ない発生初期では検知できない可能性が高いことを知っておく必要がある。

黴対策には、なによりも収蔵庫内の湿度を低く保つことが大切で、これ以上有効な対策はない。ただし大気中には非常にたくさんの黴胞子が漂っていること、乾燥条件下で黴胞子はただ休眠しているだけなので、なんらかの原因で湿度があがると、急激に繁殖する可能性がある。特に、漏水などによる水害にあった場合には、後の処理を適切にする必要がある。

経験上から、冬が寒い地域では冬期には収蔵庫内の冷暖房を行わないのがよい。かえって害虫の繁殖に最適な温度になってしまうからである。

日常的に行う薫蒸も、IPMの一環として位置づけられる。それは、新着資料の受け入れの際、あるいは外部に持ち出した資料が戻ってきた場合（たとえば貸し出した資料が返却されたときや、整理・同定など外部に委託した資料を受け取る場合）に行う薫蒸である。この薫蒸には薬剤を用いる場合もあるし、また冷凍庫を用いる方法もある。手軽さと安全を考えると、今後は冷凍庫を用いる方法が普及するだろう。Bridson & Forman (1998)によると、温度はマイナス18度で十分、マイナス30度だとより効果的とある。この温度で十分だとすると比較的安価な冷凍庫を使うことができ、電気代も少なくて経済的である。潤沢な予算があればマイナス80度以下まで冷やせるウルトラディープフリーザーを購入するのも良いだろう。価格以外にも、機種によっては運転音が非常にうるさいこと、電気代がかかるという欠点もあるが、なによりも薫蒸時間が短時間ですむという利点がある。ただし冷凍による薫蒸については、マイナス30度で一日間冷凍薫蒸した資料から虫が這いだしてくるのを目撃した例があるので、実際の運営に当たっては十分な配慮が必要である。

2 . 不幸にして害虫・黴が発生した場合

環境へ掛ける負荷やかかる費用と時間を考慮するならば、これまで行なわれてきた予防的・慣習的薫蒸を行なうのはやめた方がいいのではないだろうか。予防はIPMを駆使し、被害が出た初期段階で薬剤による薫蒸を行なうというのが、もっとも適した方法であると思う。しかしながら、適切な予防策を講じていたにもかかわらず虫害が発生する

ことは避けられない事態だろう。この場合、薬剤による薫蒸の出番となる。

薫蒸は、被害がでた収蔵品だけを隔離して行なう小規模薫蒸と収蔵庫全体を対象とする大規模薫蒸に分けて考えられる。小規模薫蒸は、上で述べた日常的対策に用いる施設・装置を使っておこなうことができる。問題は大規模な薫蒸である。予防策もむなしく虫害等が発生し、薫蒸を行わなければならなくなった場合に、どのような点に注意するべきかについてまとめてみる。

薫蒸薬剤の選定

虫だけでなく黴も薫蒸の対象とする場合、臭化メチルに代わる薫蒸薬剤としては、ヨウ化メチル、酸化プロピレン、酸化エチレンという現在3つの候補が存在している。すべて特定化学物質であり、取り扱いには特別の配慮が必要となる。浸透性に違いがあり、薫蒸に必要とする時間が薬剤によって異なっている。なぜ殺黴効果があるのかその作用機序が不明なため、植物標本等の収蔵資料が含むDNAへの影響については、個別に調査する必要がある。しかし、すでに薫蒸にさらされた場合には、考慮する必要はないだろう。新着資料についてのみディープフリーザーに保管場所を確保するなど、個別に対応すればよい。

1. ヨウ化メチル

単独でもちいる。大気中では難燃性。大気中爆発限界は14-18 vol. %であり、現実の薫蒸中にこのような濃度になることはないため、爆発の危険性は低い。2001年度版ACGIHでの評価では、記載がない。オゾン層破壊物質としての効果は臭化メチルの約20分の1であり、現在のところ使用についての規制はない。従来臭化メチル、エキボン用機材に加えて、気化させるための装置が必要である。

薬剤濃度にもよるが、通常は虫を殺すためには24時間、カビまでを殺すには72時間の薫蒸時間が必要となる。大型収蔵庫の薫蒸では、準備、薫蒸、除毒作業に6-7日が必要。無臭であるが、他の物質と反応して強い臭いを発することがある(なにと反応したかについては不明)。人と自然の博物館での実施では、薫蒸後一週間の間臭いが抜けなかった。

2. 酸化プロピレン

アルゴンに希釈して用いる。酸化プロピレンはきわめて引火性が強く(引火点-37度)、爆発をさけるための濃度管理には特別な技術と装置を要する(大気中爆発限界2-38.5 vol. %)。2001年ACGIHでは、A3(動物発ガン性物質)とされている。多くの薫蒸実績があるが、爆発性の危険性を恐れてなのか、現在では避けられる傾向がある。

酸化プロピレン、アルゴンともにオゾン層破壊物質ではない。

3. 酸化エチレン

フロン134aに希釈して用いる。酸化エチレンも引火性が強く(引火-19度)、酸化プロピレンと同様の爆発危険性をもつ(大気中爆発限界3-100 vol. %)。2001年ACGIHでは、A2(人に対する発ガン性が疑われる物質)とされている。希釈剤として用いられ

るフロン 134a は、オゾン層破壊物質ではないが、大きな温室効果作用をもたらす。

ヨウ化メチル、酸化プロピレン、酸化エチレン（そして臭化メチル）に共通する性質として、低温では殺虫効果が減少することに注意しなければならない。これは特に冬期に薫蒸を実施する場合には問題となるだろう。ヨウ化メチルは摂氏10度以上であれば24時間で十分な殺虫効果が得られるが、酸化プロピレンと酸化エチレンでは常温に近い摂氏20度でも48時間を必要とし、摂氏15度以下では殺虫効果がほとんど得られない。

人と自然の博物館では、臭化メチルに代わる薫蒸薬剤を検討する過程で、従来使用していたエキボン（臭化メチル・酸化エチレン混合剤）に含まれている酸化エチレン、爆発性が危惧される酸化プロピレンを避け、ヨウ化メチルを第一候補とした。ヨウ化メチル薬剤メーカーである日宝化学（株）によれば、活性炭を用いることで、仕様薬剤の大部分を回収できるとのことであり、これもヨウ化メチルを選択した要因のひとつである。また収蔵品DNAへの影響について予備的な実験を行ない、他の薬剤に比較して特段悪い影響を受けないことを確認している。小薫蒸室（約15立方メートル）を使って、動物、植物、書籍等の収蔵資料の薫蒸実験を行ない、変色等の薬害がないことを確認したのち、2001年9月初旬に生物系収蔵庫（天井裏空間を含めて約5000立方メートル）全体で薫蒸を行なった。2002年5月現在まで問題は発生していない。

収蔵施設の隔離性の問題

本来は定期的な薬剤薫蒸を想定して、しっかりと気密され、外界からある程度隔離された施設として設計されているのが収蔵庫である。しかし阪神大震災の際にも明らかとなったように、設計と施工は別物である。実際に機密性が保たれているとは限らない。換気ダクトや電気配線、コンクリートのひび割れなど、少しの間隙からでも薬剤は漏れてゆく。薫蒸の際にはどうしても圧力がかかるので余計である。業者によっては、有料で気密性調べてくれるところもあるので、依頼してみるのも手である。

気密性に問題が発見された場合、もれに対する処置を行なう必要がある。これは薫蒸作業をする人間にとって生命に関わることであるが、わずかに漏れであっても薬剤の流出分を補う必要がでてくるため薫蒸作業にかかる時間が長引くという弊害も生じる。なによりも外に漏れることは、住宅地に隣接する施設では存続に関わる事態だといえる。薫蒸ガスは異臭をとまなうため、住宅地や他の研究室に隣接している場合には、少しの漏れでも大きな問題に発展することが予想される。

環境へ与える負荷について

環境への配慮には、おおきくわけて、地球規模、周辺地域、収蔵庫内という3つのレベルが考えられる。地球規模の環境負荷に対しては、IPMの導入による予防的薫蒸の廃止あるいは軽減、薫蒸薬剤の転換、再回収・利用の促進などによって対応できるだろう。問題は、周辺地域環境と収蔵庫内環境への配慮である。これについては、実際の薫蒸作業にかかわる点が大きい。実際にどのような手順で薫蒸が行われるかについては、野村・大森（2002）による詳しい解説が出されている。ぜひ一読を勧める。収蔵庫内環境に関

しては、くりかえしになるが、薫蒸薬剤のこと以上に日本で常用されるナフタリンが国によっては使用禁止となっていることも心にとめておく必要がある。

薫蒸業者の選定、とくに入札という制度について

公的機関において薫蒸を行なうに当たっては、実際の作業を行なう薫蒸業者を選定する際に、入札を行なうことになる。ここにも大きな問題点がある。

薫蒸に関してはよくない噂を聞くことがある。それは、実際には薬剤を必要量だけ使わない、ひどいときには全く使用せずに作業を行なうというものである。技術を持つ適切な業者を選ばないとこのようなことがおこる。入札の制度を適当なものへ整える必要がある。

薫蒸業者にも大小さまざまあり、持っている技術、経験には大きな差があるようだ。薫蒸中には24時間体制で現場に人が配置されているのだが、夜間の見張りをアルバイトに任せるなど、十分な安全管理をおこなわない業者もある。事前に業者の技術力、安全管理体制を知り、それを入札に生かす必要がある。

また、これまでは薫蒸といえばエキボンであったことから、代替剤を使用するに当たっては、あらたな機材を必要とする場合があり、濃度管理など適切な使用に関して経験を持たない業者も少なくないのではないだろうか。

薫蒸の実施に当たっては、博物館側がしっかりと業者を監督する必要がある。この点では、私の勤務する人と自然の博物館には反省すべき点が多い。値段の安さだけで業者を選定すると(入札とは一般にそういうものなのだが)、事故のおそれだけでなく、薫蒸の効果が全くなかったという事態にもなりかねない。人と自然の博物館は、1999年の大規模薫蒸後わずか半年後の夏に、タバコシバンムシが収蔵庫内に大発生したという経験がある。薫蒸作業を全く業者任せにしていたことが、結果としてこのような不始末をしでかす原因のひとつであったと考えている。

薫蒸剤は薬剤メーカーから直接購入し、薫蒸業者に渡して使用させるようにすれば、ある程度手抜きは避けられるのではないだろうか。あるいは、いくつかの館で実際に行なわれているように、小規模薫蒸では館員が自ら薫蒸を行なうことも必要なのかもしれない。

原稿執筆にあたって、群馬県立自然史博物館の野村正弘さんに印刷前の原稿を見せていただきました。記して感謝いたします。

参考文献

- ACGIH 2001. Threshold limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. American Conference of Governmental Industrial Hygienists. Cincinnati.
- 野村正弘・大森威宏 2002. 群馬県立自然史博物館における薫蒸の見直しについて 全日本博物館学会誌 26 (印刷中)
- Bridson, D. & Forman, L. (eds.) 1998. The herbarium handbook. 3rd ed. The Royal Botanic Gardens, Kew.

追悼

里見信生先生のご逝去を悼む

頌栄短期大学保育科 福岡誠行

里見信生先生は6月2日午後11時38分、心不全のため金沢市内の病院で死去されました。享年79歳です。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

先生は駒場農学校(現在の東京大学農学部)在学中に学徒出陣で軍隊に徴集されました。終戦後、千葉農業専門学校(千葉大学園芸学部に編入)に奉職され、故正宗巖敬先生に招聘され昭和26年に金沢大学理学部生物学科に移られています。昭和63年(1988)に教授の職を定年退官するまで金沢大学に勤められました。その間、昭和58年に石川県で開催された第34回全国植樹祭にご臨席された天皇陛下を、加賀市塩屋海岸と能登一宮(羽咋市)の気多神社へご案内されています。身に余る光栄で、終生忘れることのできない感激であった、と北国新聞(昭和58年5月28日)に記されている。平成元年から同2年の間、旧日本植物分類学会の会長を務められました。里見会長の功績は会長公選制の導入でしょう。それまでは退任する会長が次期会長を指名する慣例でした。

1952年1月から植物分類地理学に関する雑誌「北陸の植物」を正宗先生を助けて出版することになる。里見先生のお供で植物採集に出ると、それぞれの地域で植物好事家の方々が来られる。そこで雑誌の会費の徴収をされていた。雑誌の継続には里見先生の資金集めのご苦労があったからこそでしょう。

日本産蘭科植物分布図(一)サワラン及びキリガミネアサヒランを正宗先生と共著で「北陸の植物」7:101,1958に発表されました。このシリーズは毎号発表され、(七十)オニノヤガラ(同26:85,1979)まで続けました。

伊豆七島の植物には大いに興味をもたれていました。これにかんする論文には以下のものがあります:伊豆大島植物雑記(一)北陸の植物6:120-122,1957;御蔵島植物雑記(一)北陸の植物9:63-64,1960;伊豆御蔵島産植物目録(一)羊歯植物北陸の植物11:89-93,1962丸山尚敏と共著、など。

ライフワークの一つになった北陸の植物図譜シリーズは、エチゴキジムシロ *Potentilla fragarioides* L. var. *togashii* (Ohwi) Ohwi et Satomi (北陸の植物14:viii,1965)から始められました。ハマオミナエシ *Patrinia scabiosifolia* Fisch. var. *crassa* Masamune et Satomi (同14:xvi,1965) タチクサボタン *Clematis stans* Sieb. et Zucc. var. *urticifolia* (Nakai) Satomi (同14:xxiv,1966)と続き、(四十五)トキワイカリソウ(同26:xiv,1979)で終わっています。この中には新名や学名の組換えなど分類学上の新知見が多数発表されています。

地方大学の教官はすべからくその地域の文化の先達として貢献すべきである(採集と飼育50:106-107,昭和63年)という理念のもとに、石川県の植物の調査研究、またその保全に骨身を惜しまず励まれました。石川県地域植物研究会の会長を1985年の設立当

初から10年間務められ、1999年に「石川県樹木分布図集」を編著されました。また、石川県巨樹の会会長を1990年から1998年まで務められました。これは巨樹の会としては全国初名乗りでした。石川県の環境行政にも深くかかわられています。

石川県の文化や環境保全に寄与したことにより次のような数々の表彰状、感謝状などを受けられています：石川テレビ(昭和59年)、石川県知事(平成5年)、金沢市長(平成7年)、環境庁長官(平成9年)、文部大臣(平成12年)。

里見先生は多趣味な方でした。落語については玄人はだしの腕前で、山遊亭銭朝の芸名をお持ちでした。帽章の蒐集についても熱心でした。蒐集品の一部が「北陸の植物」を改題した「植物地理・分類」の表表紙(28巻1号など)に紹介されています。

編集後記

今年の夏は暑かったですね！特に、名古屋の暑さは暴力的とも思えるほどでした。ヒートアイランド現象というのはかなり深刻な問題なのではないか、地球温暖化がどうのこうの言う前に、都会人は熱中症にやられてしまうのではないか、などと考えてしまいました。もっと都会が緑で埋まって、ヒートダウンしてくれることを切に願っています。でも、それが適うと今度は、緑化に使った植物の帰化の問題が深刻になるのかしらん・・・。

みなさま、夏ばてを早く治して、秋の植物観察に備えましょう！原稿も、毎度のようにお待ちしております。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学博物館
西田佐知子

電話：052-789-5764 ファックス：052-789-5896
Email: nishida@num.nagoya-u.ac.jp

連絡員から夏便り

北方草木便り・3・

森林総合研究所北海道支所 河原孝行

北海道の希少植物

現在私は同僚の永光輝義君とともに、希少樹種の保全研究を進めているので、今回は北海道の希少植物をとりあげたい。

北海道は環境省レッドデータブック（環境省，2000）に取り上げられている種数は準絶滅危惧・情報不足種を含めても277種と少ない。北海道では「北海道の希少野生生物」を2001年に出版し、維管束植物を含む生物のレッドデータブックを発行している。維管束植物は512種がリストアップされている（表-1）。それによると、北海道の絶滅種はタカネハナワラビ、オオクワノテ、エダウチアカバナの3種があげられている。

タカネハナワラビは1977年の有珠山噴火で絶滅したことで見解は一致している。一方、オオクワノテとエダウチアカバナは北海道でのみ記録されたことのある種だが、環境省レッドデータブックでは絶滅危惧IA類（CR）北海道版では絶滅種と食い違っている。

また、絶滅危惧種をみると環境省レッドデータブックの判定より北海道レッドデータブックの判定結果がゆるい傾向が見られる。例えば環境省版で

絶滅危惧IB類（Endangered）と判定されたもので北海道版にも掲載されているものは82種あるが、このうちランクが高い絶滅危機種Crは10種、同レベルの絶滅危惧種Enも10種、ランクの下な絶滅危急種Vu26種、希少種R（＝環境省版のNT）36種となっている。これはただ北海道で自然が多く残っているから全体にランクが低いというだけでなく北海道にしか分布していない種でもランクの下げられているものがある。例えばレブンソウは環境省版では絶滅危惧IA類だが、北海道版では絶滅危惧種Enとして掲載されている。

北海道版には環境省版に掲載されていない種が232種も掲載されている。この例には実際本州ではおなじみだが北海道では珍しいもの、例えばシュンラン（Cr）、コナギ（Vu）、ゲジゲジシダ（R）、キツタ（R）などが含まれている。また、全国的に減っていきうなのに環境省版で取り上げられなかったもの（シラネアオイなど）もある。逆に、環境省版で取り上げられているのに北海道版で掲載のないものに、レブンサイコ（CR）、

北海道 RDB	環境省 RDB							リスト外	総計
	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD		
絶滅(Ex)	1		2						3
野生絶滅(Ew)									0
絶滅危機(Cr)			20	10	3		1	2	36
絶滅危惧(En)			21	10	7		1	8	47
絶滅危急(Vu)			17	26	43	1		22	109
希少(R)			19	36	46	9	7	199	316
留意(N)								1	1
小計	1	0	79	82	99	10	9	232	512

表1. 環境省版レッドデータブックと北海道レッドデータブックに記載された各ランクの分類群数の比較

エゾニガクサ (CR)、エゾムラサキツツジ (VU) などがある。レブンサイコは礼文島ではそれほど珍しくはないし、エゾムラサキツツジも盗掘は多いたろうがそれほど少ない感じはしない。このように全国レベルの環境省版レッドデータブックと北海道地方レベルの北海道版レッドデータブックには地域の状況をふまえた違い以上のずれが感じられ、今後すりあわせが必要だろう。

さて、ついつい概論が長くなってしまったが、私達が研究対象としている希少樹種に話を戻そう。クロミサンザシ *Crataegus chlorosarca* はバラ科の低木で、5-8 m位になる。環境省版で絶滅危惧 IA 類、北海道版でも絶滅危機種 (Cr) と評価は一致している。河川沿にできたやや湿性の平地に生えており、道内では石狩・上川・釧路・根室・北見に見られる。ヤナギ林内にはみられず、ヤチダモやハルニレなどとともに生育している。札幌周辺ではこれらの防風林内に時々見られる。このような防風林の周辺は本来石狩川の泥炭湿地が広がっていたのであるが、農地改良工事でほぼ完全に耕作地化され、好湿性の植物の生育できる環境がほとんどなくなっている。その中で防風林がこのような種の待避地になっている。クロミサンザシは木肌がガサガサとめくれあがっているため林内でもわかりやすい。2-3cmの棘があり、うっかりして刺されるとかなり痛い。この棘はエゾシカなどの食害には有効そうである。5月下旬から白い散房花序をつける。この頃の防風林にはズミやエゾノコリンゴ、少し遅れてカンボクなど白い花が次々と咲いていてにぎやかである。これらには1.5cm程の甲虫がよく訪れている。交配様式はまだ調べていないが、木での一般的性質(ほとんど他殖)とアイソザイム分析の結果から考えるとかなり他殖が行われていそうである。結実も悪くなさそうなので今のところ何とか集団は維持される見込みはあるが、生育地は分断されているためその将来は不安である。

ヤチカンバ *Betula ovalifolia* は、やはり湿地に生えるカバノキ科の低木であり、日本では道東の更別と別海の湿原にのみ知られる。日本のものを独立種とする



クロミサンザシの花

考え方もある。氷河期の遺存種と考えられ、この仲間はシベリアで広く分布している。日本に残る2集団ともすでに耕作地や牧草地に取り囲まれ、孤立して残っているにすぎない。それぞれの場所に個体数は多く残っていたが、更別では特に乾燥化が進んでおり、環境そのものが悪化して一気に絶滅してしまうことが危惧された。



更別のヤチカンバ自生地

コケ便り・3・

岡山理科大 西村直樹

涼しい(?)コケ

「夏ですので涼しいコケの話などいかがでしょう」というお誘いを編集長からいただきました。「涼しい」といえばやはり水、水辺でしょう。コケ屋にとっては、山間の清流です。木漏れ日がチラチラと差し込むようなやや明るい日陰がいいですね。爽やかな風がずっと吹き抜けて、やがて滝の音が聞こえてくると・・・クマノゴケが期待できます。滝の側で一休みしたら、滝の水飛沫がかかるような岩の上や岩だなの上を探してみると、手のひらぐらいの深緑色のマットを作っているクマノゴケが水しぶきをあびていかにも涼しそうに生育していることでしょう。

クマノゴケ (*Theriotia lorifolia* Card.)はキセルゴケ科クマノゴケ属の蘚類です。1904年に韓国の標本に基づき、新属新種として記載されています。属名は仏人コケ研究家I.

Thériot への献名、種小名は lori-(革紐)、folia(葉)の意味です。葉をつまんでルーペで見ると、細長くて、コケの葉にしては厚みがあり、なるほど、革紐！と納得することと思います。日本で最初に見つかったのは紀伊の熊野のようです。和名はその地名にちなんでいます。

今ではクマノゴケは、日本と韓国のほかに、中国とカシミールからも知られています。国内では、北は宮城県から、南は屋久島までの各地から報告があります。まだ、全国規模での詳細な分布を調べたものはありませんが主に温帯域に分布する種類のようです。近年行われた環境庁による絶滅危惧種調査の際には全国各地で生育状況が調べられました。山が荒れているのか、水が汚れているのか、あちこちで「山間の清流」が減少しているようで、既知の産地では随分と少なくなっているようです。絶滅危惧Ⅰ類に分類されています。

ところで、このような調査の際には各地で地域フロラの研究をなさっている方々が活躍します。現在、日本蘚苔類学会には320名程の会員がいますが、会員の分布を都道府県ごとにみると、一番多いのが東京の44名、次が広島30名、そして神奈川の28名とつづきます。しかし、会員が数名以下のところが大半を占めていて、会員が1-2名のところは11ヶ所、既に不在の県も1ヶ所あります。各地でコケ屋の絶滅が危惧される状況です。

いささかお寒い話になってしまいましたが、コケもコケ屋もいきいきと生育、生息するようにしたいものです。



クマノゴケ *Theriotia lorifolia* Card.

氏名

所属

氏名

所属

氏名	所属	氏名	所属
----	----	----	----

氏名

所属

氏名

所属

氏名	所属	氏名	所属
----	----	----	----

氏名	所属	氏名	所属
----	----	----	----

氏名	所属	氏名	所属
----	----	----	----

氏名

所属

氏名

所属

氏名

所属

会員消息

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読
申込などは下記へご連絡ください。

〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館
日本植物分類学会 高野温子(会計幹事)
Phone 0795-59-2012, Fax 0795-59-2019
E-mail: takano@nat-museum.sanda.hyogo.jp

平成14(2002)年8月14日印刷

平成14(2002)年8月23日発行

編集兼 名古屋市千種区不老町
発行人 名古屋大学博物館
西田佐知子

発行所 東京都文京区白山3-7-1
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
日本植物分類学会
郵便振替 00120-9-41247